

[ 年度 ] 令和元年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[ 成果情報名 ] 業務用キャベツの菌核病の防除対策

[ 担当機関名 ] 農業試験場環境部

[ 専門分野 ] 野菜

[ 連絡先 ] 0736-64-2300

[ 分類 ] 普及

[ 背景・ねらい ]

近年、食の外食化・中食化に伴い、業務用野菜の需要が高まっています。県内でも、ナバナ、キャベツ、ハクサイなどの業務用野菜が栽培されており、多収、省力、低コスト栽培技術の開発が求められています。業務用の春どりキャベツ栽培では、菌核病の発生が減収の要因となり、問題となっています。そこで、伝染源である子のう胞子の飛散期間、数種薬剤の防除効果および残効期間を明らかにし、効率的な防除体系の確立に取り組みました。

[ 研究の成果 ]

1. 子のう盤（図1 B、伝染源である子のう胞子の入れ物、土壌中の菌核が発芽して形成される）の形成は、10月～12月と3月～4月でした（図2、平成28～29年）。
2. 子のう胞子の飛散期間は、おおむね10月～12月と3月～5月と考えられました（図2、3）。
3. 薬剤の防除効果は、シグナムWDG、ファンタジスタ顆粒水和剤、カンタスドライフロアブルで高く、ロブラール水和剤はこれら3剤に劣りました（図4）。
4. 主要薬剤の残効期間は、シグナムWDGとカンタスドライフロアブルで約1か月、ファンタジスタ顆粒水和剤で2～4週間、ロブラール水和剤は2週間でした（図4）。
5. 11月下旬定植、4月収穫の作型では、12月上旬にカンタスドライフロアブル、2月下旬にファンタジスタ顆粒水和剤を散布すると、防除効果が得られました（図5）。

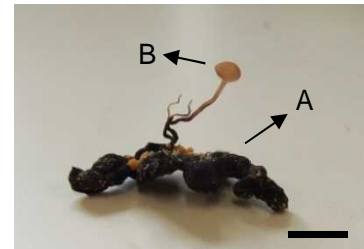


図1 菌核と子のう盤  
A:菌核 B:子のう盤  
スケールは1cm

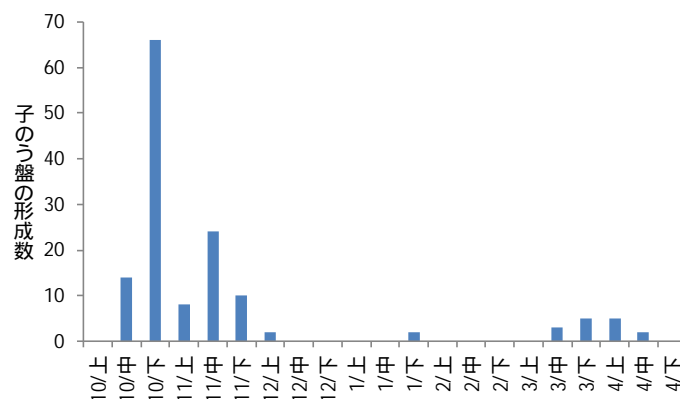


図2 菌核病菌の子のう盤の形成の推移(平成28～29年)

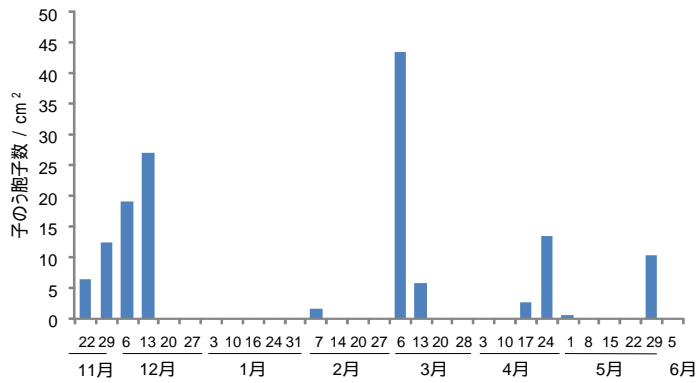


図3 菌核病の子のう胞子の飛散消長(平成30~令和元年)

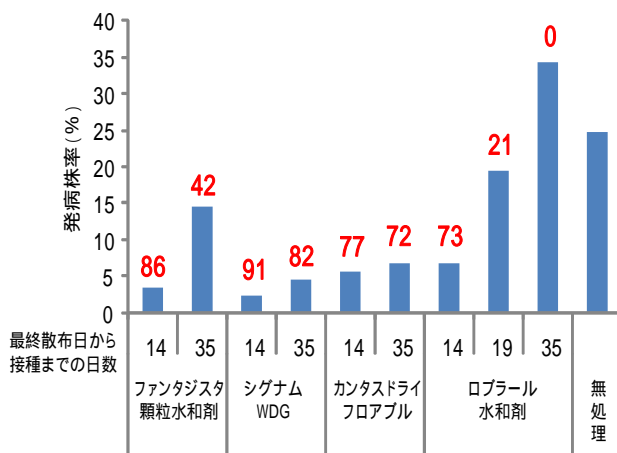


図4 キャベツ菌核病に対する数種薬剤の残効期  
接種日:平成30年4月17日 調査日:5月28日  
図中の数字は防除値

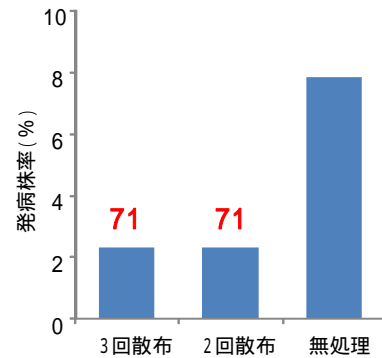


図5 キャベツ菌核病に対する体系防除の防除効果  
定植日:平成30年11月21日  
調査日:平成31年4月19日  
図中の数字は防除値  
3回散布 12/1 カンタス 12/19 ファンタジスタ 2/26 シグナム  
2回散布 12/1 カンタス 2/26 ファンタジスタ

[ 成果のポイントと活用 ]

1. 子づ胞子の飛散期間である10月~12月と3月~5月に、シグナム WDG、カンタスドライフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤等を散布すると、防除効果が得られます。
2. 15~20 で土壌が湿潤なとき、子づ胞子が多く形成されます。そのため、降雨量や気温により子づ胞子の飛散期間や飛散量は変動します。例えば、暖冬の年は菌核病の発生は多い傾向があります。
3. 春どりキャベツ栽培では、定植時は子づ胞子の飛散期間にあたります。パレード 20フロアブルのセルトレイ灌注処理がキャベツ菌核病対象に適用拡大されていますので、これを利用すると1回目の薬剤散布を省略できます。

[ その他 ]

予算区分: 県単 (農林水産業競争力アップ技術開発事業「業務用野菜キャベツ・ハクサイ・ナバナの安定生産技術開発」)

研究機関: 平成29~令和元年

研究担当者: 菱池 政志

発表論文等: なし